

## 平成30年度（2018年度）事業報告

平成30年度において、一般社団法人共生社会推進プラットフォーム（以下「本法人」という。）は、その設立の目的である、様々な成育歴や環境の下で生活している子どもたちや障害のある方々なども含めたすべての国民が参加し貢献することができる「共生社会」の実現に向け、関係者相互の情報交換や相互研鑽を図る場を提供すること等により、我が国社会の発展に寄与することを目指し、事業を行った。

具体的には、以下について実施した。

### 1. 社会的養護の健全な発展のためのプラットフォームの構築及びフォーラムの開催

日本財団の助成金（補助率80%）を活用して、以下のとおり、事業を実施した。

#### （1）事業内容

本事業は、様々な成育歴や環境の下で生活している子どもたちや障害のある方々なども含めたすべての国民が参加し貢献することができる「共生社会」の実現に向け、関係者相互の情報交換や相互研鑽を図る場を提供すること等により、我が国社会の発展に寄与することを目的として行われた。

関係者相互のネットワークの構築・強化を図るとともに、具体的に講ずるべき実効性のある施策について、それぞれの主体間の垣根や主義主張の相違を超え、横断的に交流、討議するため「全国家庭養護推進ネットワーク」をプラットフォームとして立ち上げ、社会的養護の健全な発展を目指すため、2月2日、3日に東京都千代田区にて第一回 FLEC（Family Life for Every Child）フォーラムを開催した。

このフォーラムでは、我が国において家庭擁護を推進するにあたり、里親、ファミリーホーム、施設、児童相談所、学会、行政などの関係主体が具体的にどのような施策を講ずるべきかについて講演、事例報告を行い、それぞれの主体間の垣根や主義主張の相違を超えて横断的に討議した。

家庭養護推進ネットワークにおいては「設立発起人」としてこどもの社会的養護に関わる学識経験者、医師等の職能団体、経済界、労働界、メディア関係者、地方自治体、行政経験者等が参加した。また、「協力団体」として、社会的養護に関する事業者団体、当事者団体、障害児者関係団体等が参加をした。

参加人数は236人であった。

#### （2）事業内容詳細

1日目のフォーラム開催前には全国家庭養護推進ネットワークの設立発起人となった34名を招き、発起人集会を行い、ネットワークとフォーラムの方向性を確認しあった。

フォーラム本体においては、1日目はネットワークの趣旨説明と「これからの社会的

養護を展望する、ビジョン、計画策定要領の公表、そして都道府県計画の見直しに向けて」と題したシンポジウムを行った。シンポジウムには、養護施設、児童相談所、学識者、行政などの関係者6名と、2名の助言者を招き、様々な関係者相互のネットワークを構築・強化を推し進め、それぞれの現場で関係者が共通認識の下、密接に協力して具体的な対策に取り組むことなどについて、議論を深めた。今後の障害児施策や子育て支援施策、母子保健施策、学校教育等の関連分野との連携と協働についても話し合われた。発表、討論は4時間にかけて行われた。

2日目の午前は分科会を以下の5つのテーマで行った；①里親を増やすための方策とフォスタリング機関のあり方について ②フォスタリング機関の設置を前提とした児童相談所と施設のあり方、及び相互の連携について ③障害児施策や子ども子育て支援等其他施策との連携を含めた家庭養護の多様化について ④要保護児童を対象とした養子縁組の推進方策について；⑤多様な子どものニーズに対応するための家庭養護の質の向上について

午後のシンポジウムでは「今後の家庭養護の推進に向けて」と題し、各分科会の報告の後、5人のパネリストが、今後のネットワークに期待するものについて発表を行った。